

「社会福祉基礎」の校外授業を行いました

～リハビリセンター白鳥（池田町）にて～



5月13日（木）5・6限、今年度新設した3年生の選択科目『社会福祉基礎』の校外授業を社会福祉法人 新生会「リハビリセンター白鳥」（〒503-2413 岐阜県揖斐郡池田町白鳥 386 Tel:0585-45-3133）のご協力のもと、同施設で行い、3年2組の科目選択者28名が出席しました。その様子を紹介します。

授業は、第3章「高齢社会を生きる」の中で「尊厳と福祉社会の創造」をテーマに、高齢福祉に関する支援システムやバリアフリーの現状を、生徒が自ら地域に足を運んで、体験的に学習する目的で実施されました。開講式では、桑原 陽（きよし）施設長から、「認知症の理解、リハビリセンター白鳥の概要」の講義を受けました。

最初に、「認知症はどんな病気だと思いますか？」の問いかけから、認知症についての説明がありました。単なる物忘れではなく、脳の機能性疾患による認知機能の低下であり、生活のしづらさからくる心理的なストレスを解消するために被害妄想や徘徊、暴言等の症状が現れることが分かりました。また、入所者の多くの方が認知症であること、若くても認知症になること、そして若いほど進行が速いことを知りました。

また、脳血管障害による片麻痺（体の片側が麻痺して動かせない状況）の体験をしました。利き手ではない方の手だけを使って、瓶の蓋を開けるというものでしたが、うまく力が入らず、開けることができませんでした。しかし、滑り止めマットや自助具を使うことによって簡単に開けることができました。片麻痺の方の生活のしづらさや気持ちを理解するとともに、残された機能を活用し、できる限り自分の力でいけるように支援をすることの大切さやその工夫の仕方を学びました。



「リハビリセンター白鳥」は池田高校から歩いて15分の距離にある大変身近な施設です。



【『社会福祉基礎』校外授業開講式】
リハビリセンター白鳥施設長の桑原陽様からお話を聞きました。



利き手ではない手でお菓子が入った瓶の蓋を開けようとしては、開けられません。



滑り止めマットを使うことで、片手でも蓋を回すことができました。



自助具を使うことで、利き手ではなくても上手に箸でつかむことができました。



施設見学。ウォーターベットタイプのリクライニングの車いすもありました。



立ち上がりを補助する移動用リフト。立ち上がりの動作は、利用者、介護者共に負担が大きいため、福祉用具を用いると効果的です。



力を入れなくても楽に立位や座位がとれました。



施設には広いトレーニングルームがあり、様々なリハビリの機器を見学しました。



立ち上がりに必要な脚力をつけるための機器について説明を受けました。



立ち上がりを補助するリフトの体験。



猫背を改善するために背筋を鍛えます。

授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

認知症の方は、様々な不安を抱えているけれど、施設の職員の皆さんの関わり方で、穏やかな気持ちで生活ができるのだと思います。私は将来、介護職として働きたいと思っているので、認知症の方々の気持ちに寄り添い、支えていけるようになりたいです。

リハビリセンター白鳥の居室は、4人部屋であっても個人のプライベート空間を大切にされた設計になっていました。陽当たりが良く、家にいるような居心地の良い、あたたかい雰囲気がありました。施設利用者の立場に立った様々な工夫がとても勉強になり、貴重な体験をすることができました。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～